



平成 23 年 4 月 14 日

各 位

会社名 株式会社竹内製作所
 代表者名 代表取締役社長 竹内 明雄
 (JASDAQ・コード 6432)
 問合せ先 取締役経営企画室長 神山 輝夫
 電話番号 0268-81-1100 (代表)

平成 23 年 2 月期通期業績予想値と決算値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 10 月 8 日付「平成 23 年 2 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と決算値との差異及び通期の業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」において発表いたしました平成 23 年 2 月期(平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日)の通期業績予想と本日公表の決算値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 2 月期 通期業績予想と決算値との差異

(平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日)

(1) 差異の内容

【連結】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	33,630	△590	△1,350	△1,720	△105.31
決算値 (B)	34,928	71	△872	△1,299	△79.55
増減額 (B—A)	1,298	661	478	421	—
増減率 (%)	3.9	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 2 月期)	23,199	△482	△131	△205	△12.73

【個別】

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想 (A)	28,320	△1,780	△2,060	△2,090	△127.97
決算値 (B)	28,639	△1,435	△1,788	△2,946	△180.42
増減額 (B—A)	319	345	272	△856	—
増減率 (%)	1.1	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 22 年 2 月期)	12,313	△1,566	△1,072	△701	△43.42

(2) 差異が生じた理由

【連結】

建設機械事業において米国、欧州及び中国での需要の増加により販売台数が増加したことなどから、売上高は予想よりも12億9千8百万円増加し349億2千8百万円になりました。

利益面では、販売台数が増加し売上高が増加したこと及び未実現利益の減少などにより、営業利益は7千1百万円（予想は5億9千万円の営業損失）になりました。しかし、第3四半期から期末に向けて外国為替相場が予想よりも円高になったことにより、営業外費用において、当社の外貨建債権及び中国子会社の円建債務などの為替差損が予想よりも2億3千6百万円増加し10億1千5百万円発生したことから、経常損失は4億7千8百万円減少し8億7千2百万円になりました。当期純損失は、予想よりも4億2千1百万円減少し12億9千9百万円になりました。

【個別】

建設機械事業において米国及び欧州での需要の増加により販売台数が増加したことなどから、売上高は予想よりも3億1千9百万円増加し286億3千9百万円になりました。

利益面では、売上高の増加と売上原価及び販売費及び一般管理費が予想よりも減少したことなどにより、営業損失は3億4千5百万円減少し14億3千5百万円になりました。第3四半期から期末に向けて外国為替相場が予想よりも円高になったことにより、営業外費用において、外貨建債権などの為替差損が予想よりも1億2千4百万円増加し5億6千8百万円発生したことから、経常損失は2億7千2百万円減少し17億8千8百万円になりました。当期純損失については、当社の中国の連結子会社について、将来業績が回復していく可能性を認識しつつも、当該子会社の財政状態及び業績状態を勘案し、当社の当該子会社への出資金の将来的な減損リスクの回避を目的として、健全性の観点から特別損失において投資損失引当金繰入額を11億2千4百万円計上したことにより、予想よりも8億5千6百万円増加し29億4千6百万円になりました。

なお、投資損失引当金繰入額は個別決算上のもので連結決算では消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

以上